

info DRIVE ジャマガジン

Jamagazine

Japan Automobile

Manufacturers Association

日本自動車工業会 広報誌

JAMA vol.53 月号
2019 12
[December]



特別インタビュー

政策研究大学院大学客員教授・
科学技術振興機構構想研究開発戦略センター上席フェロー・SIP自動運転サブプログラムディレクター

有本 建男 「自動運転は技術開発と法整備の両輪で」

特集

第46回東京モーターショー2019ダイジェスト

自工会主催「メディア向け自動運転セミナー」開催

自動車博物館関連施設紹介シリーズ

日野自動車／日野オートプラザ

JAMA

一般社団法人 日本自動車工業会

お越しいただいた皆さま、 ありがとうございました。 楽しんでいただけましたでしょうか。

これまで 何度も東京モーターショーにお越しいただいていた方もいらっしゃると思います。クルマやバイクを、ずっと好きでいてくださりありがとうございます。「今回はいつもと少し違うな…」と感じられたかもしれません。これから **変わっていく部分** と、これからも **大切に続けていく部分** とがクルマやバイクにはあります。変わっていく部分にも **ワクワクして** いただけたならば… 嬉しく思います。初めて東京モーターショーにお越しいただいた方もいらっしゃると思います。モーターショーに行ってみよう! と思っていたこと、まずは、ありがとうございます。 **楽しいと思えるなにかに出会えたでしょうか?** 「来てみてよかった!」「楽しかった!」と言っていただけなら嬉しいです。「また来たい!」と言っていただければ、もっと嬉しい です。2020年、今回の会場のまわりはオリンピック・パラリンピックの会場 になります。そこでは、今回見ていただいたような **未来のモビリティたちが走りはじめます**。更に、その1年後の **2021年** には、**次のモーターショーを予定** しています。今回、見ていただいたモノたちが、これからの **2年** で **どれだけ進化** をするのか? 皆さま、**想像してみてください**。我々は、その **想像を遥かに上回るようなモノ** を2年後のモーターショーで、また **提案したい** と思っています。皆さまの **驚く笑顔を想像しながら**、我々ももっと頑張って、ものづくりを進めてまいります。もし今回、「楽しかった」「来てよかった」と思っていただけなら、**2021年の東京モーターショーにも、ぜひご期待ください**。2年後、またのご来場をお待ちしております。ただ、前売り券は、まだ販売いたしておりません(笑)



JAMAGAZINE 2019年 12月号

発行日 2019年11月29日
 発行人 一般社団法人 日本自動車工業会 広報室
 発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
 〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
 広報室 kouho2@mta.jama.or.jp

©禁無断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



02

巻頭インタビュー

政策研究大学院大学客員教授・
 科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー・
 SIP自動運転サブプログラムディレクター

有本 建男氏

「自動運転は 技術開発と法整備の両輪で」

06

特集

第46回東京モーターショー2019 ダイジェスト

10

自工会主催 「メディア向け自動運転セミナー」開催

12

「CEATEC 2019」開催

13

自動車関連団体対抗 ボッチャ大会を開催！

14

第3回「クルマのある風景」 フォトコンテストを開催

15

2019年 秋の褒章

16

自動車博物館関連施設紹介シリーズ

日野自動車/日野オートプラザ

17

記者の窓

「運転免許を持たなかった父」

朝日新聞社 久保 智

1 政策研究大学院大学客員教授・
 科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー・
 SIP自動運転サブプログラムディレクター
 有本 建男氏

2 3 第46回東京モーターショー2019ダイジェスト

4 自工会主催「メディア向け自動運転セミナー」開催

5 自動車関連団体対抗ボッチャ大会を開催！

●JAMAGAZINEは自工会WEBサイトからもご覧いただけます

[www.jama.or.jp/lib/
 jamagazine/index.html](http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/index.html)





政策研究大学院大学客員教授・
科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー・
SIP自動運転サブプログラムディレクター

ありもと たてお 有本 建男氏 に聞く

自動運転は技術開発と法整備の両輪で

自動運転の実用化には、技術開発と法制度の整備の両輪で進めていく必要があります。関係省庁、産業界、そして大学が一堂に会し、早期社会実装を狙う国家プロジェクト「戦略的イノベーション創造プログラム」(SIP)は、両者を一体的に進めるユニークな枠組みとして機能し、法改正と協調領域の技術開発を加速させています。自動運転という新たな分野で、日本の国際競争力を高めるためにはどういった取り組みが必要なのか。SIP自動運転のサブプログラムディレクターを務める政策研究大学院大学客員教授の有本建男氏に聞きました。

20世紀を牽引してきた
自動車産業が今世紀も
担う役割は大きい

「自動車のあり方が変わりつつありますが、この変化をどう見ますか」

「それは今年の東京モーターショーのテーマに表れています。「OPEN FUTURE」(オープン・フューチャー)はなかなか刺激的な言葉だと思います。「OPEN FUTURE For What」,「OPEN FUTURE For Whom」という視点でしっかりと議論しなければいけません。「何のための」「誰のための」ということです。企業の競争力だけでなく、地域、子供や高齢者などさまざまな人の目線で考えることが大切です。また、使うモビリティも乗用車やトラックだけではなく、陸海空を含め、多様な手段があると思います」

「これまで自動車産業はどのような位置づけでしたか」

「自動車は20世紀最大のイノベーションと言われています。」

米国工学アカデミーが公表した「20世紀の20大イノベーション」のリストを見ますと、石油やコンピュータ、計測機器など、ほとんどが自動車に関係しています。また、このリストにある高速道路システムも大きな発明です。自動車産業は自動車メーカーやティア1、2のサブシステムメーカーだけではなく、保険などさまざまな業種が関わっており、非常に裾野の広い産業です。

多くの雇用を生み、社会の仕組みや人々の生活の仕方も変えました。自動車があつたから郊外にどんどん移り住むようになり、ライフスタイルも変化しました。一方で、反省点もあります。自動車は排気ガスの原因となつたり、世界で交通事故の死者数が約130万人も出ています。国連で取り組むSDGs(持続可能な開発目標)、関連する日本のビジョンであるSociety 5.0(※1)の観点からも、環境や気候変動、健康や街づくりの課題に対して、モビリティが果たす役割は非常に大きいのです。交通事故死の半減はSDGsの大きな目標の一つです」

※1 Ⅱ
サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)、狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもの。

間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)、狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもの。

21世紀のモビリティは「動く人工知能」に

「モビリティにどのような変化が訪れるのでしょうか」

「2014年に発足した内閣府が主導する戦略的イノベーション創造プログラム(S-IP)は、自動車産業全体のさらなる高みを目指して、革命を起こすくらいの大きなコンセプトで取り組まないといけません。私が思うに、21世紀の自動車は、動く人工知能(AI)です。AIが閉鎖空間から外に出て、パーチャルだけじゃなく、実世界とつながり、本格的に社会や人の生活にインパクトを与えます。パーチャルサイドから攻めているのがグーグルやアマゾンなどのIT巨大企業「GAF A」です。彼らはまず、新聞やマスメディアを変化させ、それから小売業も変えました。そして今、モビリティ

のところまでできています。これに応じて、自動車メーカーも変わるうとしており、大変な勢いで他業種との連携や投資を増やしています。大きな構造転換です。21世紀は、人間とAI、ビッグデータ、自動車、そして地球が共存していかないといけない時代です」

「S-IPの活動意義は何でしょうか」

「オーナーカーはもとより、高齢化や地方での移動課題の解決に向け、自動運転を本気になつてやりましたのは10年代に入ってからです。企業がバラバラに

取り組んでいたら、国際競争に対応できない、社会課題に対応できないという判断から政府がイニシアティブを取るようになりました。14年に内閣官房が民間ITS構想・ロードマップを策定しました。相当高い目標とスビードを掲げていますが、そうしないと国際競争で負けてしまいます。このロードマップの実現に向けて、S-IPが技術の研究開発や実証実験に着実に取り組む。目標が示されたことでS-IPが活動しやすくなり、なにより、関係省庁が連携しやすくなったことが大きいのです」

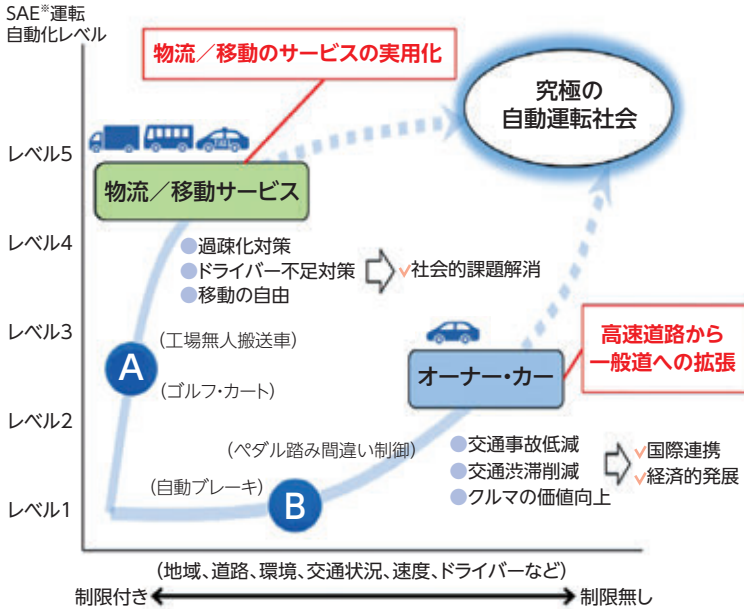


2015年9月、国連で加盟国が一致して「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の17の開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)を採用した。2030年までに、各国は貧困を撲滅し経済成長、教育、健康、食糧、都市、雇用機会、生活の質の向上を含む幅広い社会的ニーズを充足しながら、気候変動と環境保護に取り組むこととしている。



究極の自動運転社会実現へのシナリオ

資料:官民ITS構想・ロードマップ2019より
 ※SAE (Society of Automotive Engineers):
 米国の標準化団体



現在の自動運転開発には図のAで示される「限られた時空間での自動運転を追求するもの」、Bで示される「より多様な環境下での適用を追求するもの」の2つのアプローチが存在。ドライバーによる運転を当分の間、前提としつつも自動運転技術を活用することによって高度な自動運転支援を行うBのアプローチは自動車の更なる高度化や渋滞削減につながり、消費者に付加価値を与えることによって自動車産業の競争力強化にも付与できるものである。一方のAのアプローチは過疎化対策やドライバー不足、交通制約者のモビリティの確保等の課題に対する革新的な解決法であり、新たなビジネスの創出という期待も大きい。自動運転という技術を活用してより早くこれらの目標達成に貢献するため、両方のアプローチが必要となる。(戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)自動運転(システムとサービスの拡張)研究開発計画より)

政策研究大学院大学客員教授・
 科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー
 SIP自動運転サブプログラムディレクター
有本 建男氏に聞く

技術開発と法整備の
 同時進行が重要

政府の対応も進んでいます

「内閣官房と内閣府が主導して関係省庁が一堂に会するプラットフォームができたことがとても大事です。技術開発も必要ですが、その技術を実験した

り、社会実装するため規制緩和がなかったらそこでストップしてしまいます。道路交通や電波の法制度などを同時に整備していかないといけません。この仕組みなら可能です。先の通常国会で、警察庁と国土交通省が自動運転を見据えて道路交通法と道路運送車両法の二つの大きな法律を改正したことも一連

の成果でしょう。システムや技術が確立して提供される前に、法改正が行われるようなことは、これまで日本ではほとんどありませんでした」

「日本の国際競争力の強化に向けた取り組みの進捗はいかがでしょうか」

「SIPで取り組む協調領域には、ダイナミックマップやHMI（ヒューマン・マシン・インターフェイス）、セキュリティ※2などの分野があります。なぜ協調領域をつくっているかというと、共同で開発する方がスピーディーで効果的であり、また、国際標準の動きに立ち遅れないようにするためです。国際標準化は産業の国際競争力に直結します。地方部や道の駅など全国でいろんな実験が始まっていますが、データや経験を協調領域としてちゃんと共有することが大切です。全国で一斉に様々な取り組みをしているのは世界でも珍しく、雪が多かったり、GPSが届かない地域での対策など色々なデータや経験が得られ、地域の特性に応じてカスタマイズすることができます。日本にとってもこれ自

身が国際競争力になるため、地方創生事業などと協働して、しっかり進めないといけません」

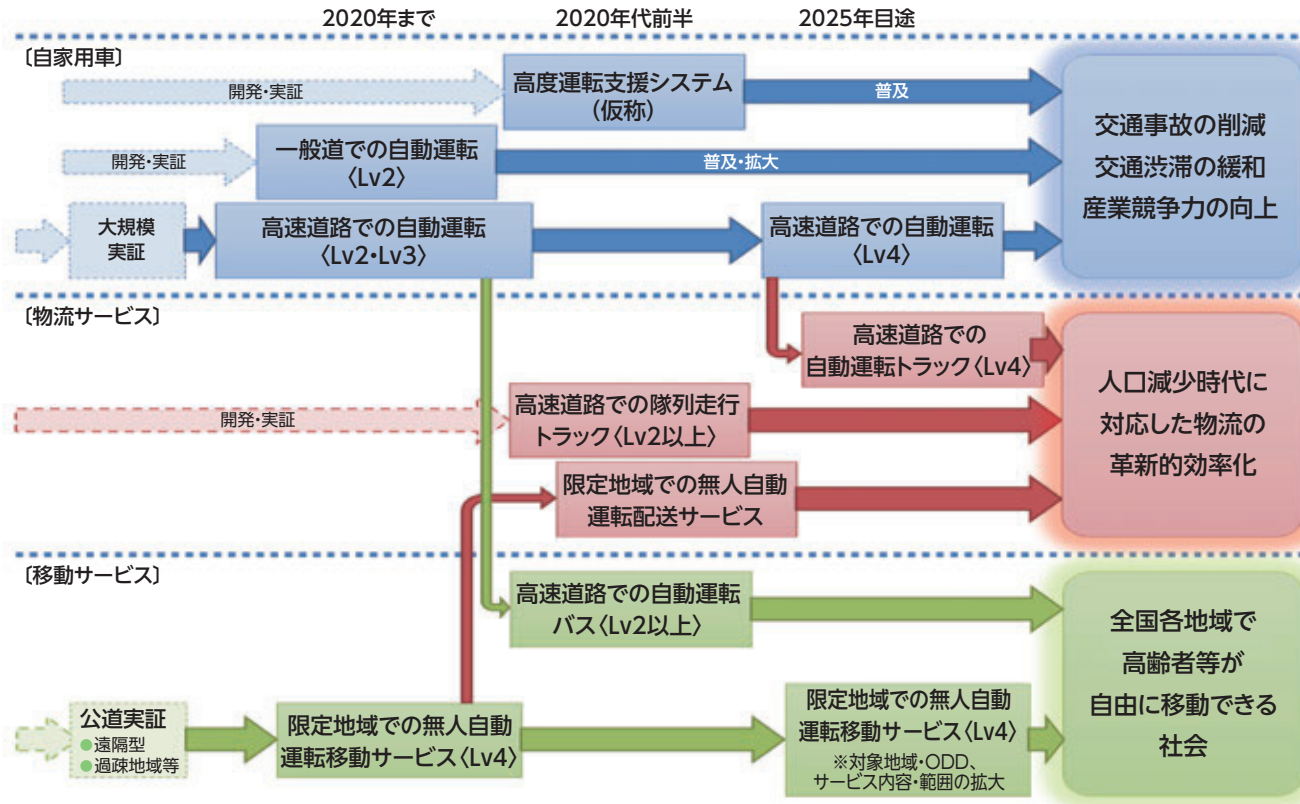
- ※2
- ダイナミックマップ(高精度な3次元地図データ)
- HMI(ヒューマン・マシン・インターフェイス:人間と機器との協調)
- セキュリティ(外部からの不正アクセスなど)

「現在進められているSIP(第2期)が完了したあとの姿はどうあるべきですか」

「現在のSIPの事業期間は22年度末までなので、そのあとの取り組みの立て付けをどうするかが非常に大事で、その議論が今から始まります。肝心なのは、技術開発の進展に応じて行政側の法体系、安全基準などもスピード感をもって、一体的・同時的に変えていくような仕組みは残していかないといけません。ロードマップやSIPのような枠組みがなくなると、ばらばらになる可能性があります。認知判断操作に必要な高度な技術はナショナルセキュリティにも関わっています。23年以降にはこのあたりが一気に発達するので、日本全体で総合的に動きつつある必要があります」

官民ITS構想・ロードマップ2019

2025年完全自動運転を見据えた市場化・サービス実現のシナリオ



**技術や人材の育成
実証実験は重要**

「自動運転の実現に向けた大学の役割を教えてください」

「大学はコンソーシアムをつくらせたり、企業や地方政府との連携を増やすなど、さらに強力に取り組んでほしい。一例が、SIP第2期の仮想空間での安全性評価環境の取り組みであり、大学と電機機器企業などが連携しています。大学や国立研究所は企業にとって集まりやすいところなんです。スタートアップや中小企業も重要になります。企業が数年先の競争力確保への投資に注力するならば、大学は10年先の技術や人材育成に手を打っておくことが求められるでしょう」

「新たに東京臨海部で始まった自動運転の実証実験への期待をお聞かせください」

「やっぱりあれだけの大規模なものを経験中の企業が参加して安全に実施していることがポイントでしょう。28もの機関で

PROFILE

1974年京都大学大学院理学研究科修了、科学技術庁入庁。内閣府大臣官房審議官などを経て、2004年から文部科学省科学技術・学術政策局長、2006年から、科学技術振興機構社会技術研究開発センター長、研究開発戦略センター上席フェロー、2012年から政策研究大学院大学教授、国際高等研究所副所長、日本学術会議特任連携会員。OECD科学助言及び異分野連携に関するプロジェクト共同議長、政府科学助言国際ネットワーク委員、外務省科学技術外交推進会議委員、国連STI for SDGs Forumメンバー。専門分野は科学技術政策、研究開発ファンディング・システム、科学技術と政治の架橋。

「す。実験に参画されている企業の皆さんにとっては大きな決断だったと思います。このことはもうちょっとアピールした方がよい。社会的受容性を高めるといふ観点でも、世界でも類例のないような大規模実証実験であり、周知すればみんな安心すると思います。社会的受容性の醸成は、22年度以降も重要な課題です」

第46回 東京モーターショー 2019 ダイジェスト

未来の モビリティ 社会を体感

10/24~11/4
130万900人が
来場

日本自動車工業会は、「第46回東京モーターショー2019」を東京ビッグサイト（青海・西・南展示棟）、MEGA WEB、シンボルプラザノード公園等において10月24日（木）から11月4日（月・休）までの12日間の会期で開催いたしました。ご来場の皆さま、出展者の皆さまをはじめ、関わっていただいた全ての皆さまに、心より御礼申し上げます。

今回は「OPEN FUTURE」をテーマに、グローバルに活動する総勢192企業・団体が参加、業界を超えてオールインダストリーで「クルマ・バイクのワクワクドキドキ」から「未来の暮らし」「未来の街」にまで領域をひろげ、1,300,900人の方々に未来のモビリティ社会を体感いただきました。また、お子さまや若い方々にも多数ご来場いただき、特に14歳以下の来場者の割合は前回比で約7割も増加しました（速報値）。大いに盛り上がった「第46回東京モーターショー2019」、たくさんコンテンツの中から、その一部を改めてご紹介します。



豊田会長による開会挨拶



多くの来場者で賑わう会場内



TMS各展示物の様子はHPの「ビデオギャラリー」にて公開中です。詳細はコチラ



オールインダストリー「他業界とのコラボ」で実現した「FUTURE EXPO」



Panasonic SPACe_L



宇宙技術 (ispace)



安全対策技術体験



詳細はコチラ

オリンピック・パラリンピック等経済界協議会やNEDO[※]など、62の企業団体と連携し、MEGA WEB会場[※]で主催者プログラムとして「FUTURE EXPO」を開催し、約500,000人近くの方に「こ来場」いただきました。

「入国」「移動体験」「都市」「スポーツ」「地方観光」「未来のエネルギー」など、テーマに沿って、クルマやバイクのみならず、異業種の最新技術が一堂に集結、100を超えるコンテンツで少し先の未来を体感いただきました。また、自動車メーカーによる最新安全技術の体験会や、自動運転車両の試乗会を実施するなど、「こ来場」の皆さまに日本の技術力・日本の未来にも期待をお寄せいただけた場となりました。

※NEDO…国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

今話題のe-Motorsports、様々な大会を実施



都道府県対抗U18全日本選手権
優勝者に自工会矢野理事より優勝トロフィーを授与



©2019 Sony Interactive Entertainment Inc. Developed by Polyphony Digital Inc.

RESULT

● 都道府県対抗U18全日本選手権

1	水野 航希 (愛知県)
2	箕輪 卓也 (茨城県A)
3	佐々木 唯人 (東京都)

● 自動車メーカー対抗・真剣勝負

1	トヨタ
2	SUBARU
3	日産

● FIA グランツーリスモ チャンピオンシップ 2019 シリーズ ワールドツアー第5戦 マニファクチャラーシリーズ

1	ポルシェ (アンゲル・イノストローザ / トリスタン・ベイリス / マット・シモンズ)
2	BMW (コケ・ロペス / ニコラス・ルビラー / ランドール・ハイウッド)
3	トヨタ (山中 智瑛 / ライアン・デルッシュ / イゴール・フラガ)

ネイションズカップ

1	國分 諒汰 (日本)
2	アドリアーノ・カラッツァ (ブラジル)
3	コーディー・ラトコフスキ (オーストラリア)

FIA グランツーリスモ
チャンピオンシップ
ワールドツアー第5戦
in 東京モーターショー
のページはコチラ



若者の間で話題のe-Motorsportsの様々な大会を PlayStation[®]4用ソフトウェア「グランツーリスモSP ORT^{※1}」を用いて、開催しました。世界No.1プレイヤーを決める「FIA グランツーリスモ チャンピオンシップワールドツアー」では、世界各国のトップドライバーが最高レベルのレースを繰り広げ、また全国の予選を勝ち上がった18歳未満の47都道府県の代表から全国No.1を決める「都道府県対抗U18全日本選手権」が行われました。更に昨年の「東京モーターフェス」で大好評であった「自動車メーカー対抗真剣勝負」を今回も開催。国内外の10社によるエキシビションマッチには、各社社員、契約ドライバー、U18ドライバーなどによる混成チームが参加、トヨタが優勝となり、会場となったMEGA WEB会場は大いに盛り上がりました。

※1.「PlayStation」は株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの登録商標です。
©2019 Sony Interactive Entertainment Inc. Developed by Polyphony Digital Inc.

「OPEN ROAD」で、次世代モビリティなど試乗体験を楽しむ



子ども向けカート体験



多くのスーパーカーを展示



詳細はコチラ



電動キックボード試乗体験

今回は、「有明エリア」に加え、新たに「青海エリア」まで会場を拡大、ふたつのエリアをつなぐ約1.5kmの一本道がOPEN ROAD。ここでは、普段見ることができないレアなモビリティをはじめ、スーパーカーやカスタマイズカー、キャンピングカーなどが大集合。電動キックボードや次世代小型モビリティなど、近未来を感じるモビリティやお子さまも楽しめるカート体験など、ファミリー、若者など多くの方々の楽しそうな笑顔が溢れていました。



軽トラ市 (in) 東京モーターショー2019



「軽トラ市」を楽しむ、スズキ 鈴木会長

「軽トラ市」を 東京モーターショーで初開催

10年前に岩手県の雫石で産声を上げ、現在では商店や地域の活性化に取り組むイベントとして全国的な賑わいを見せている軽トラ市。今回の東京モーターショーでは、約50台の軽トラが国内の各地域から集まり、地元の名産品などが販売されました。会場には、スズキ 鈴木修代表取締役会長も応援に駆けつけました。



約500機のドローンによるFUTURE DRONE ENTERTAINMENT "CONTACT"

最新テクノロジを 駆使したドローンによる ナイトショー

東京モーターショー初の夜空のスペクタクルショー「FUTURE DRONE ENTERTAINMENT「CONTACT」(コンタクト)」を実施。約500機のドローンが夢の大橋上空を乱舞する幻想的なナイトショーとして開催、3日間で約15,000人の方が堪能されました。

※国土交通省東京航空局、海上保安庁第三管区海上保安本部東京海上保安部、東京都港湾局等による許可、承認、指導の下、実施したものです。



詳細はコチラ

クルマとバイクの楽しさを体感する「DRIVE PARK」



ピストン西沢氏による同乗体験

ピストン西沢氏を総合プロデューサーに迎え、同乗試乗会、デモン、ゲストトークショーや音楽ライブなどを実施。会場を大いに楽しませてくれました。また、各社の最新車両の公道試乗体験やモータースポーツジャパン、日本スーパーカー協会、東京オートサロンとの連携により、クルマ本来の魅力を伝える盛りだくさんの内容となりました。

会期後半には国内初「FAI公認ドローンレース」の迫力あるレースに加え、日向坂46によるステージイベントを開催、2日間で約3,000人が観覧されました。



詳細はコチラ



レース車両の同乗体験



ドローンレース

子供向け職業体験型施設「KidZania」と初コラボ



トミカコーナー



詳細はコチラ



Out of KidZania in TMS2019

今回のショーは、「体験」がキーワード。「キッズニア」と初めてコラボし、カーデザイナーやメカニックなど、クルマに携わる全11の職業体験プログラムに約10,000人のお子さまが参加し、メディアでも大きく取り上げられ大盛況となりました。

また、お子さまから絶大な人気を誇るトミカの展示・販売ブースも展開。東京モーターショー開催記念モデルをはじめトミカのオリジナルモデルまで大人気でした。

今回のチャレンジを2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」、更に翌年の「第47回東京モーターショー2021」へ繋げていきます。



自工会主催

メディア向け 自動運転セミナー

(10月30日開催)

日本自動車工業会(自工会)は10月30日、2020年東京オリピック・パラリンピック大会直前に行われる自動運転の大規模実証実験を控えて、メディア向けセミナーを東京モーターショー開催中の東京ビッグサイトで開催しました。前半、羽田・臨海地区で実施する自動運転実証実験の概要、中長期モビリティビジョン・自動運転の役割を説明。後半の自動運転がもたらす可能性をテーマにしたパネルディスカッションでは、自動運転車による人々の暮らしや価値観の変化、今後のモビリティサービスの可能性について活発に討論がなされました。

■モビリティ社会の実現

自工会は来年7月、「羽田空港」「羽田―臨海・都心」「臨海部」の3エリアで実証実験を公開します。セミナーでは自工会2020年対応検討会の沼田泰主査が基調講演として「東京2020自動運転実証の取り組み」と題し、「世界で最も安全・効率的で自由なモビリティ社会の実現を目指す」ことを提示しました。さらに自工会・ITS企画部会の三崎匡美副部長が「自工会が描く中長期モビリティビジョン」と題した同講演で「業界の枠を越えて、人々の暮らしに感動をもたらすモビリ

ティの未来に挑戦する」と力説していました。

■豊かな生きがい提供

ITSジャパンの天野肇専務理事は第一部講演者として「1億総活躍社会を見据えた自動運転の役割」をテーマに、未来のモビリティ社会は「個情報の集約が社会的課題の解決に貢献する」と述べました。モビリティの役割として、「移動手段の利活用が社会の構造変化につながり、人々に豊かな生きがいを提供することになる」と語り「1億総活躍社会」を実現する手段として、自動運転の重要性を示していました。

■モビリティサービスの可能性

一方、第二部パネルディスカッションでは「自動運転で広がる生活経済社会の可能性予測」をテーマにし、モータージャーナリストの清水和夫氏、メディアアーティスト・実業家の落合陽一氏、「WHILE」代表取締役兼CEOの杉江理氏が、「NewsP

〔基調講演〕 自工会が描く中期モビリティビジョンと自動運転実証の取り組み



2020年自動運転及び先進運転支援技術実証の取り組みについて

沼田泰氏
(日本自動車工業会
2020年検討会主査)

自工会が描く
中期モビリティビジョン

三崎匡美氏
(日本自動車工業会
ITS企画部会副部長)



第一部 講演

1億総活躍社会を見据えた、自動運転の役割

天野肇氏
(ITS Japan専務理事)



第一部では講師が自動運転実証実験の意義、役割を語る



第2部のパネルディスカッションではモビリティ社会の可能性を討論

「i cks」CCOの佐々木紀彦氏の進行役でモビリティの可能性について討論しました。今回の新しいモーターショーの中心について、清水氏が「これまでメーカーと縦で結ばれていた部品メーカー各社が技術開発のために横の結びつきを強める動きが見えて面白い」と好評価していました。加えて人のお掃除ロボットに対する「愛着」を例に、自動運転も「愛着」がもたれるようにしなければと話していました。パーソナルモビリティの開発を行うWHEELの杉江氏は「私有地内でのパーソナルモビリティの自動運転化は来年に実現する」との見通しを示しました。

■ 運転の喜びも

また、運転免許を所有していないという落合氏と杉江氏に対して、清水氏は個人で自動車を所有、運転する喜びを話し、「今後はクルマを操作する喜びは今まで以上に重要視される」と熱く語り、杉江氏は「究極的にパーソナライズされた乗り物は、クルマというより馬のようなものだ」と表現していました。

「CEATEC 2019」開催



20周年の節目を迎えた

IoTやCPSなど先端技術の展示 新たに「Society 5.0 TOWN」を設置

IoT(モノのインターネット)やサイバーフィジカルシステム(CPS)など先端技術の展示会「CEATEC(シーテック)2019」が10月15日から18日まで、幕張メッセ(千葉市美浜区)で開催されました。CEATECは16年に「脱・家電見本市」を宣言して以降、官民が推進する「Society 5.0」の社会に向けた展示に舵を切っています。今回は新たに「Society 5.0 TOWN」を設置し、電機以外の銀行や建設住宅、タクシー会社なども出展。787社・団体(18年725社・団体)が出展し、来場者数は14万4491人となりました。

■20周年を機に国際ショーに

20周年を迎えたCEATECは昨年までの「CEATEC JAPAN」の名称から「JAPAN」を外し、国際的な展示会としての認知を高めました。海外企業を積極的に誘致し、ロシアやスイスが複数社でパビリオンを設けるなど海外企業・団体の出展数が増えました。

■自動車関連技術を展示

自動車業界では、先端技術を展示する企業が目立ちました。Society 5.0のキーワードの一つに自動走行があることから、CASE(コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化)に関連した企画や提案は増加

■HMIを披露

自動車技術では複数の電子部品メーカーが、触覚技術を使ったヒューマンマシン・インターフェース(HMI)を披露しました。利用者がカーナビゲーションなどのディスプレイで操作すると、指を振動させて操作感を伝える技術です。電圧を加えると伸縮する電子部品がパネルを振動させることで感覚を得ることができます。また、もう1社は空中に映像を浮かび上がらせる3Dホログラムに触れた感覚を得られる技術を披露しました。超音波センサーで指の皮膚を震わせる技術で、エンターテインメント分野や将来的には自動車でも実用化を目指しています。

また、今回のCEATECの会場では新たに学生向けに「学生交流ラウンジ」を設け、企業のトップや大学OBと対話できる機会を提供しました。また、日産自動車の電気自動車(EV)「リーフ」を展示してCASEの進展を支える半導体や電子部品の役割をポスター展示で紹介しました。リクルートスーツに身を包んだ大学生や高校生の団体の姿も多く見られました。



空飛ぶクルマも注目を集めた



学生と企業トップの交流も



学生交流ラウンジではEVを展示して電子部品や半導体の役割を紹介



20周年企画で自動運転バスの実証実験を実施

■自動運転の実証実験も

20周年企画では、自動運転のベンチャー企業が会場周辺の公道で自動運転バスの実証実験をCEATECで初めて実施しました。ハンドルのない車両をヘー

■自動運転の実証実験も

スにした自動運転バスで、レベル2(部分運転自動化)の技術で走行しました。信号協調による自動走行や運行管理システムで時刻表どおりに自動運転バスを出発させる機能を採用しています。

■自動運転の実証実験も

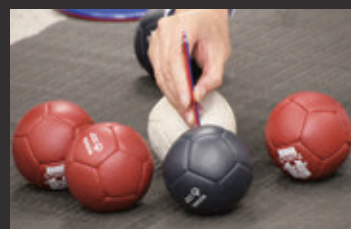
20周年企画では、自動運転のベンチャー企業が会場周辺の公道で自動運転バスの実証実験をCEATECで初めて実施しました。ハンドルのない車両をヘー



3Dホログラムに触感を与える技術、将来的には自動車への応用も

自動車関連団体対抗 ポッチャ大会を開催！

10月10日、日本自動車会館交流会



日本自動車会館のくるまプラザで、自動車関連団体対抗による「ポッチャ大会」が10月10日に開かれました。2団体が1チームになり6チームが参加、予選、決勝戦ともにわきあいあいとした雰囲気の中で、参加者は笑顔でプレーを楽しんでいました。

今大会は日本自動車会館運営委員会が同会館内の自動車関連団体を対象にした「交流会」（親睦会）のアトラクションの一つで、ポッチャ競技は初の試みです。自工会は2020年東京オリンピックパラリンピック大会に向けたソフトレガシー活動の一環として、バラスポーツの普及活動に取り組んでいます。また、ポッチャはパラリンピック大会の主力競技になっ

ています。す。競技はコートエリア内の白いジャックボールを的に、両チームが投げるカラーボールをいかに近づけられるかを競う点数制。ルールは比較的簡単なので誰でも手軽に楽しめます。12団体が参加して2団体で1チームを編成、全6チームが2つのリーグに分かれて予選リーグ戦を展開。最後に両リーグのトップチームによる決勝戦を行いました。軽飲食をしながらの観戦だったこともあり、

一球一球に大きな声援が送られ、全7試合とも盛り上がりをもてしていました。

交流会終了後は「すごく楽しかった」「またやってみたい」との声も多く、混成チームを組んだことで団体間交流も深まり、ポッチャ大会は好評でした。

ポッチャ参加団体一覧

- 一般社団法人 自動車再資源化協力機構
- 一般社団法人 全国レンタカー協会
- 一般社団法人 日本自動車会議所
- 一般財団法人 日本自動車研究所
- 一般社団法人 日本自動車工業会
- 一般社団法人 日本自動車車体工業会
- 一般社団法人 日本自動車販売協会連合会
- 一般社団法人 日本自動車連盟
- 株式会社 JAFサービス
- 株式会社 JAFメディアワークス
- 公益財団法人 自動車リサイクル促進センター
- 公益財団法人 日本自動車教育振興財団

(五十音順)

第3回「クルマのある風景」フォトコンテストを開催

過去最多の9038点応募、最優秀賞6点を選出

経済広報センターは、10月21日、小学生を対象に実施した「クルマのある風景」フォトコンテスト(後援:日本自動車工業会)の受賞作品を発表しました。6月10日から9月20日までに応募のあった作品9038点(応募者数2758名)の中から、最優秀賞6点、優秀賞17点、佳作29点を選出しました。

最優秀賞 賞品:図書カード10000円分	受賞者名		作品名
	尾田 恵祐	(埼玉県 3年生)	みんなでトラクター
	三枝 穂乃華	(兵庫県 3年生)	弟の初参加
	砂子 杏惶	(神奈川県 3年生)	車で女子会
	岡坊 悠翔	(愛媛県 5年生)	シャボン玉の中に
	近藤 三葉	(岩手県 5年生)	秋空の下
	鈴木 眞歩	(茨城県 6年生)	おそろいだね

(敬称略/順不同)

最優秀賞



「みんなでトラクター」

尾田 恵祐さん (埼玉県 3年生)

だいすきなおじいちゃんやいとこがトラクターに乗っている写真をとりました。



「弟の初参加」

三枝 穂乃華さん (兵庫県 3年生)

弟が自分から稲刈りの場所に来た。



「車で女子会」

砂子 杏惶さん (神奈川県 3年生)

夏休み、ほとこの車がハイエースになったので、妹たちが車の後ろで遊んでるところ。



「シャボン玉の中に」

岡坊 悠翔さん (愛媛県 5年生)

シャボン玉で車をコーティングして遊びました。



「秋空の下」

近藤 三葉さん (岩手県 5年生)

早起きをして出かけて見た秋空の下には金色の田んぼがありました。



「おそろいだね」

鈴木 眞歩さん (茨城県 6年生)

車の色と、ひまわりの色がおそろいだったのでおもしろいと思い撮りました。

子どもたちに親しみを感じてもらうために

このコンテストは、将来のモビリティ社会を支えていくことが期待される若年層の関心を高めるべく、子どもたちに、クルマへの親しみを感じてもらうこと、関心を持ってもらうことを目的に開催されました。自宅や旅先で撮ったクルマ、家族と一緒に撮ったクルマ、自然や風景の中で撮ったクルマなど、クルマが写っている写真を募集しました。審査は、その写真で何を伝えたいのか、生活や季節が感じられるか、視点や構図・アイデアが秀逸であるか、などの観点から総合的に行いました。

2019年 秋の褒章

褒章 ダイハツ工業代表取締役会長の三井正則氏に藍綬褒章

この度、はからずも藍綬褒章 受章の栄に浴し、身に余る光栄と存じております。

私は、昭和50年にダイハツ工業に入社以来40年以上にわたり、軽自動車を中心としたコンパクトカービジネスに従事してまいりました。今回の受章は、当社および当社グループが「お客様の生活に寄り添った魅力あるコンパクトカーづくり」を通じて、社会に貢献しようと努力を続けてきたことが評価されたものと考えており、関係者の皆様方や諸先輩の温かいご指導と、仕入先や販売会社をはじめとした取引先様のご支援、そして社員全員の努力、何より私どもの製品をご愛用いただいているお客様に、心から感謝申し上げます。

この栄えある受章を励みといたしまして、今後もさらに精進を重ねますとともに、微力ながら、自動車産業ならびに社会の発展に尽力してまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ダイハツ工業株式会社代表取締役会長 三井 正則



《経歴》

みついまさのり

三井 正則氏 昭和25年8月1日生

【学歴】

昭和50年3月 中央大学理工学部精密機械工学科 卒業

【主な職歴】

昭和50年4月 ダイハツ工業(株) 入社(生産技術部)

平成16年6月 取締役

平成18年6月 顧問

平成18年6月	ダイハツ九州(株) 常務取締役(同社へ転籍)
平成19年6月	専務取締役
平成20年6月	ダイハツ工業(株) 顧問
	ダイハツ九州(株) 専務取締役 兼務
平成20年6月	取締役(上級執行役員) (同社へ転籍)
平成21年6月	取締役(専務執行役員)
平成22年6月	取締役副社長
平成25年6月	取締役社長
平成29年6月	取締役会長

褒章 元トヨタ自動車副社長の小澤哲氏に藍綬褒章

このたび、藍綬褒章受章の栄に浴し、身に余る光栄と存じております。

私は、昭和49年にトヨタ自動車に入社以来、オーストラリア、欧州、北米等の海外部門と経理、総務・人事、人材開発等の管理部門に携わって参りました。経済の急速なグローバル化の下、海外生産・販売の拡大と現地化、国際化が進展する中、企業を支える人材、組織の強化、原価低減活動の推進等により競争力を高めることに努めて参りました。この間、諸先輩並びに多くの関係者の方々のご指導とご支援を頂きながら仕事に取り組むことができ、微力ながらも自動車産業の発展にいささかなりともお役に立てましたことはこの上ない喜びであり、心より感謝申し上げます。

この受章を喜び、そして章に恥じない生き方をして参りたく思っております。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

元トヨタ自動車株式会社副社長 小澤 哲



《経歴》

おざわ さとし

小澤 哲氏 昭和24年8月5日生

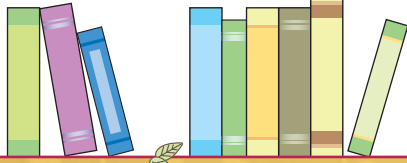
【学歴】

昭和49年3月31日 東京大学経済学部 卒業

【主な職歴】

昭和49年4月1日 トヨタ自動車販売(株) 入社

平成15年6月26日	トヨタ自動車(株) 常務役員
	(昭和57年7月1日、トヨタ自動車工業(株)と合併し同上改称)
平成19年6月22日	同 専務取締役
平成22年5月1日	同 代表取締役副社長
平成27年6月16日	同 相談役
平成27年6月23日	豊田通商(株) 代表取締役会長
平成30年4月1日	同 代表取締役



CAR Manufacturer 自動車博物館 関連施設 紹介シリーズ

日野自動車／日野オートプラザ

「日野オートプラザ」(トラック・バスのミュージアム)は日野自動車製品の高品質の基本理念、技術思想が創業と設立を含めて100年を超える長い歴史と伝統によって培われていることを、展示を通じて広く認識して頂くために1997年に開設しました。



1階

エントランスホール

経済産業省認定の「近代化産業遺産群」である「TGE-A型トラック(レプリカ)」を展示しています。



メイン展示フロア



円形になっている展示場に、ボンネットバス、EV商用車、コンテッサ等乗用車、エンジンシリーズ、安全運転装置等が展示しています。

黎明期のエンジン

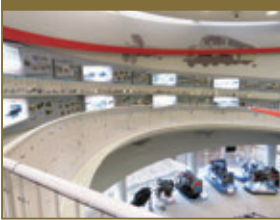


屋外展示



2階

スロープギャラリー



スロープにて自動車の歴史と日野自動車の歴史を紹介しています。

フレンドリーギャラリー



ミニカータワー、ミニカージオラマ、時代ジオラマ模型、企画展示コーナー等があります。

カフェ「ジャノン」



ミニカーショップ



インフォメーション

所在地 日野オートプラザ

〒192-0916 東京都八王子市みなみ野5丁目28番5号 日野自動車21世紀センター内
TEL:042-637-6600 FAX:042-637-6678

- 入場料 無料(団体の場合は予約が必要です)
- 開館時間 10時~16時(入館 15:00まで)
- 休館日 日曜・第1、3、5土曜日、年末年始、5月、夏季連休
- アクセス

JR中央線をご利用の場合

八王子駅南口よりタクシーにて15分、西八王子駅よりタクシーにて15分

JR横浜線をご利用の場合

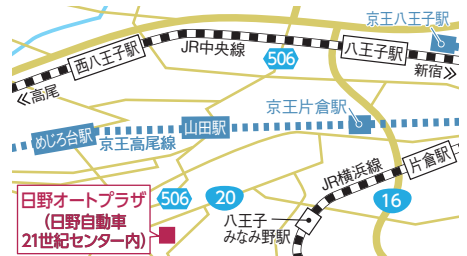
八王子みなみ野駅よりバスにて(京王バス②番乗り場の「みなみ野循環」にて午前回り9分、午後回り5分の「みなみ野五丁目南」停留所より徒歩5分)

京王線をご利用の場合

めじろ台駅よりタクシーにて10分

お車をご利用の場合

八王子ICより国道16号にて30分
※駐車場がございます

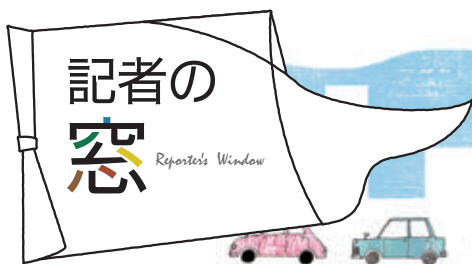


日野オートプラザ
(日野自動車
21世紀センター内)

携帯電話・スマートフォンでQRコードを読み取ると、
詳細な地図をご覧いただけます。

【資料・画像等提供＝日野自動車】





朝日新聞社

くほ さとし
久保 智

運転免許を持たなかった父

◎8月16日に父が亡くなった。

◎1942年、長野県生まれ。享年77歳。農家の7人きょうだいの末っ子で、工業高校を出た後に上京。京浜工業地帯の化学メーカーの研究所に40年超勤めた。午前6時には自宅を出て、帰るのは家族が寝静まった後。

酒もタバコも(博打も)やらず、テレビはもっぱらNHK。いまとなつては「絶滅危惧種」だが、そんな質素で勤勉な無数の人たちが戦後日本を支えたのか、と思ひ至るのは、ずいぶん大人になってからだ。

◎大学入学後に家を出たので、私は父の晩年をよく知らない。母によれば、ちよくちよく2人で旅行に行くなど、それなりに楽しんでたようだ。だが、ここ数年で急速に認知症が進み、今年初めに療養型病院に入った。死に目には会えなかつたが、「それほど苦しまなかつたようです」という看護師の言葉を信じたい。

◎40年近く暮らした神奈川県横須賀市内の施設で身内だけの葬式を終えた後、はたと気付いたのは墓のことだ。父の生家近くに一族の墓はある

ものの、ほほ縁は途切れている。墓参りもままならないので、横須賀周辺の民間墓園を探すことにした。

◎ネットの複数の「お墓探しサイト」に登録し、墓園のパンフレットを手当たり次第に取り寄せた。いくつかに候補を絞って墓園の見学もしたが、話をするのもっぱら石屋さん。石屋さんには「どこの石屋でも(石材の質が同じであれば)値段は一緒です。相見積もりは取れません(取っても意味がありません)」としつこくクギを刺された。

◎後から分かったことだが、民間墓園では複数の石屋さんが指定され、そこ以外からは墓石や墓園の永代使用権を買えない場合が多いようだ。

◎それだけに、石屋さんから見れば、お客にいかに素早くツバを付けるかが唯一の競争になる。複数のサイトに登録したため、私の携帯電話の番号はダダ漏れ。出張していた海外(時差8時間)で、未明に複数の石屋さんの「営業攻勢」に遭つたのは正直、閉口した(今でも時々かかつてくる)。そのよつな中で、私が9月に自

動車を担当することになってすぐ、業界の一大イベントである「東京モーターショー」が開幕。今回より分散型での開催となった会場を私は行つたり来たりと取材活動で大忙しであったが、頭の中は、いつも父の墓のことでいっぱいだった。

◎結局、永代使用権込みで国産車1台分ぐらいの値段の墓を建てることにした。父は運転免許を生涯持たず、我が家には「カローラ」も「サニー」も来なかつた。少し予算オーバーだったけど、それぐらいの「贅沢」は許してくれるだろう。「海なし県」育ちの父の墓からは、横須賀の街並みの先に相模湾が見える。

◎父は遺書を残さなかつた。退職金の一部などそれほど多くない遺産と、横須賀の分譲マンションの権利は、すべて母が相続するように法定相続人(母、私、妹)で取り決めた。だが、どんな書類が必要かも手続きの方法も分からない。司法書士探しから始めた相続手続きは今でも進行中。

◎相続でのお悩みは、弊社の関連サイト「相続会議」(<https://souzoku.asahi.com/>)も役に立ちます。

●相続でのお悩みは、弊社の関連サイト「相続会議」(<https://souzoku.asahi.com/>)も役に立ちます。



あっ!

まさか!

とっさに!

つい!

うっかり!

気をつけて! ブレーキと アクセルの踏み間違い

急ぐときほど落ち着いて。余裕をもった運転を心がけましょう

詳しくはWebで



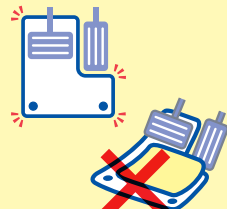
エンジンを掛ける前に、
落ち着いて、ペダルの位
置を確認しましょう。



バック時、料金所での支
払時、体をひねると足が
ズレやすいので要注意。



厚底・サンダル・ヒール
など、運転に適さない
靴・履物は避けましょう。



フロアマットはクルマに
合ったものを使い、重ね
敷きはやめましょう。



あなたの安全運転を支援する「安全運転サポート車(サポカー)」。
その機能を正しく理解し、過信せず、安全運転を心がけましょう。

JAMA 一般社団法人 日本自動車工業会
JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館
[安全運転講座ページ] <http://www.anzen-unten.com>